



まぶたのたるみ・下がりが気になる方へ

知っていますか？ まぶたの病気

がんけんかすいしょう

眼瞼下垂症

はじめに

「眼瞼下垂症」をご存知ですか？目を開いた時に、上まぶたが十分に上がらない、上げづらい状態のことです。まぶたが上がらないため、上まぶたが黒い目（瞳孔）の上にかかってしまいます。

眼瞼下垂の症状とは？

まぶたが重く、視界が悪くなり、「眠たそうな目をしている」、「目つきが悪い」と言われてしまうこともあり、日常生活に不便を感じている方や悩みを抱えている方も少なくありません。

まぶたを上げるために、代わりに「おでこ」の筋肉を使ったり、眉毛を上げたりするため、おでこにシワが寄った状態になります。また、筋肉が常に緊張した状態にあるので、普段使用しない筋肉や神経を酷使し、頭痛、肩こり、目の奥の痛みなどを引き起こします。

眼瞼下垂の原因・種類は？

眼瞼下垂にはさまざまな原因がありますが、大きく分けると先天性か後天性に分かれます。先天性は眼瞼挙筋というまぶたを上げる筋肉の機能が生まれつき悪い場合に起こります。

後天性眼瞼下垂とは、元々は普通にまぶたが開いていた人が少しずつ、または急に下がってきた状態です。ほとんどの場合は腱膜性（けんまくせい）の眼瞼下垂です。腱膜とはまぶたを上げ下げする筋肉（上眼瞼挙筋）の末端部の膜のことであり、これが伸びたり緩んでしまうことによる眼瞼下垂を腱膜性眼瞼下垂といいます。いわゆる「年をとって目が細くなってきた」という加齢性の眼瞼下垂の場合が多いです。その他ではハードコンタクトレンズの長期装用者や目をよくこする癖がある人、内眼手術（白内障手術、緑内障手術など）の既往のある人にも生じてくる場合があります。

また、皮膚弛緩症といい、加齢により上眼瞼の皮膚がゆるむ、たるむことにより皮膚が目を覆ってしまい、

視界が悪くなることもあります。まれに神経が原因（重症筋無力症、動眼神経麻痺など）によるものがあり、注意が必要となります。

眼瞼下垂の治療は？

眼瞼下垂は薬を飲めば治るというわけではないので、治療は手術となります。局所麻酔での手術が可能であり、片側であれば日帰りでも大丈夫です。両側の手術の場合は1泊2日の入院をお勧めします。皮膚のたるみが目立つ場合は余剰な皮膚を切除します。眼瞼下垂の程度により術式を選択しますが、眼瞼挙筋短縮術、挙筋前転術といった、伸びたりゆるんだりしてしまった腱膜を補強して、眼瞼挙筋の収縮がまぶたにうまく伝わるようにする手術を行うことが多いです。

術後の経過

手術翌日より洗顔・洗髪が可能です。術後1週間ほどはまぶたの腫れが強くなります。抜糸は1週間後の外来にて行います。傷跡は二重の線のなかに入るので目立ちません。

おわりに

眼瞼下垂の手術は健康保険適用となります。まぶたが下がってきてお悩みの方は、お気軽に当院形成外科にご相談ください。

— 筆者紹介 —

小林めぐみ

2007年 秋田大学医学部卒業。

東海大学医学部外科学系形成外科学 助教。

附属大磯病院 形成外科所属。形成外科学会専門医。

所属学会：日本形成外科学会、日本臨床皮膚外科学会、日本マイクロサージャリー学会、日本皮膚悪性腫瘍学会、日本下肢救済・足病学会。